



第17回 血液培養の重要性と採取時の注意点

今回から血液培養について解説していきます。

1. 血液培養の重要性

血液培養は感染症診療において最も重要な検査の一つです。感染症の中には、感染性心内膜炎・骨髄炎・カテーテル関連血流感染症など、問診や診察のみでは鑑別・診断が困難なものがありますが、**血液培養陽性の結果がきっかけで診断がつくことも多々あります。**

また、血液培養の結果は治療期間の決定にも活用されます。黄色ブドウ球菌やカンジダの血流感染は抗菌薬投与期間が短いと治療失敗する場合があります。血液培養陰性を確認した上で投与期間を設定する必要があります。

このことから、血液培養は診断だけでなく、治療の側面からも重要な検査であることがわかります。

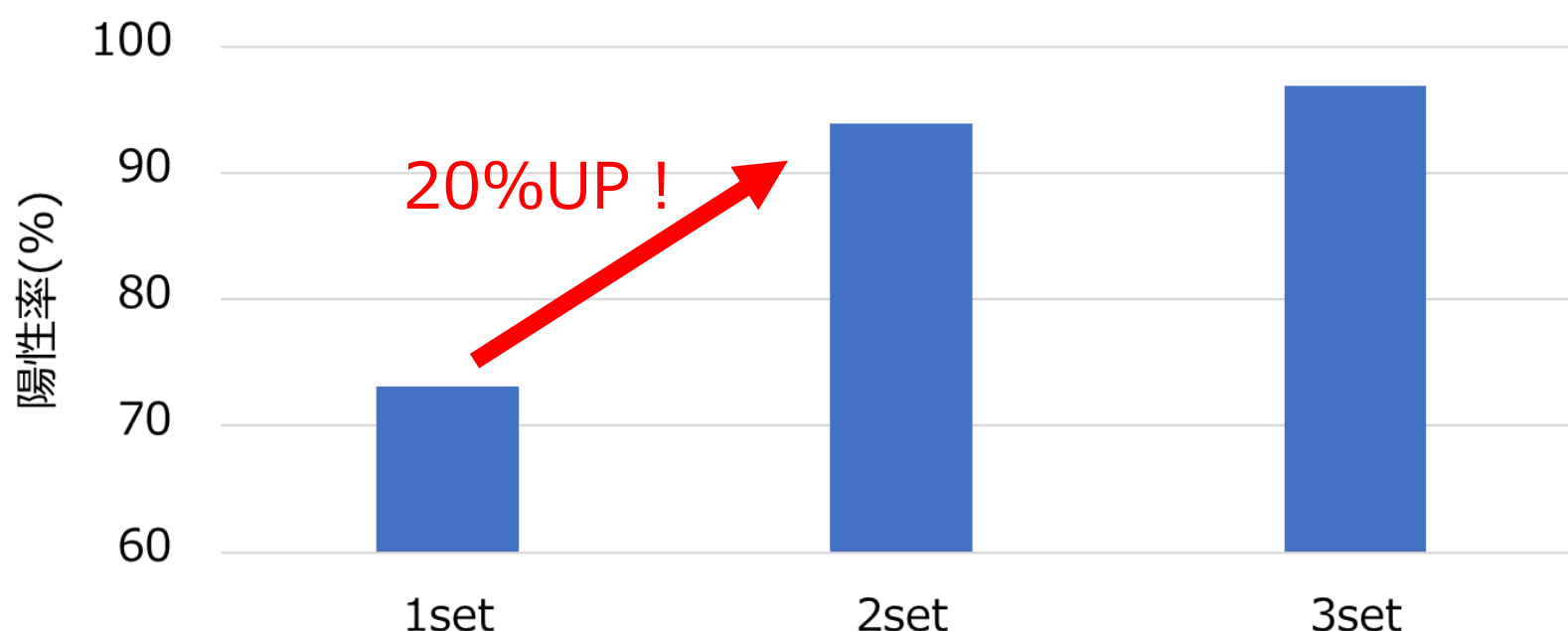
2. 採取時の注意点

血液培養を採取する際に特に注意すべきポイントを紹介します。

1) 採血セット数

採血は別々の2カ所から2セットずつ採取することが基本です。

1セットと比較して、**2セットは陽性率が約20%上昇**するからです。



2) 穿刺部位

鼠経部採血はコンタミネーションの頻度が高いため、上肢からの採血が推奨されています。

3) 消毒方法

血液培養を採取する場合は皮膚の汚れや皮脂を十分に落とした上で、より丁寧な皮膚消毒を行う必要があります。一般的には、アルコール+ポピドンヨード、または、クロルヘキシジンアルコール（濃度0.5%以上）による消毒が推奨されています。

消毒液を十分作用させてから穿刺することが重要で、ポピドンヨードは約2分間、クロルヘキシジンアルコールは30～60秒間は待つことで消毒効果が発揮されます。

また、ボトルのゴム栓部分も滅菌されていないため、血液をボトルに接種する前に、ゴム栓部分をアルコールでしっかりと消毒する必要があります。

4) 採血器具

採血に使用した採血針を新しい採血針に付け替えて血液培養ボトルに接種することは、針刺し事故の観点から推奨されていません。

血液を安全に血液培養ボトルに接種するためのトランスファーデバイスやセーフティホルダーが販売されています。

5) 血液量と接種の順番

ボトル1本当たり3～10mlの血液が必要で、上限の10mlを接種することが推奨されています。嫌気→好気ボトルの順に、それぞれ10mlを接種することが望ましいです。

10ml以上を超えて接種すると、偽陽性反応を示し正確な培養結果が得られない可能性があります。

6) 採取後の取り扱い

採取後は2時間以内に血液培養装置に装填し培養開始することが推奨されています。ただちに装填できない場合や外部委託施設などは、ボトルを室温で保管します。

次回は「当院の血液培養検査データ」を紹介します。